



どうにかする力

泗水小学校だより
R5. 2. 14(火)
No. 46
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～



泗水小学校
ホームページ

こすもす学級「卒業生を送る会」を開催しました！

2月10日(金)に、こすもす学級に在籍する児童とその保護者の皆さんに出席していただき、本校体育館で「卒業生を送る会」を開催しました。卒業する6年生にお祝いと感謝の気持ちを伝え、今後もなかまとしてつながっていくための交流を目的として行いました。

会では、卒業生が小学校生活の思い出や卒業後の目標を発表した後、在校生から記念品の贈呈がありました。また、卒業生の好きな物などを当てるクイズで楽しんだり、この日のために練習してきたダンスを保護者の皆さんに向けて発表したりしました。泗水中校区内小中4校のビデオレターの視聴もありました。4月から最上級生になる5年生が、司会進行などを立派に務めてくれました。子どもたちの成長した姿にとてもうれしく思いました。

こすもす学級の担任や学校支援員の先生方のご指導と、寒い中、最後まであたたかい眼差しで見守ってくださった保護者の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございました。



卒業生のメッセージ



記念品贈呈の様子



みんなでダンス！

☆校長室から独り言43☆

「人間のすべての行動には目的がある」を子育てのヒントに

子どもさんの行動に、「何を考えているのかわからない！」と感じることはありませんか？人は、相手が「何を考えているのかわからない！」と感じると、不安になったり、「その態度は何なの！」と腹立たしい気持ちになります。

オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーは「目的論」を唱えています。「人間のすべての行動には目的がある」というものです。大人から見ると、ただのわがままに見える子どもの行動にも、実は目的があり、その行動でかなえたい「欲求」があるのです。この子どもの「欲求」さえわかれば、子どもが考えていることを理解するきっかけになると思います。

では、「マズローの欲求5段階説」をご存じですか？アメリカの心理学者アブラハム・マズローが唱えた説で、「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」と仮定し、人間には5段階の欲求があり、1つ下の欲求が満たされると、次の欲求を満たそうとするという基本的な心理的行動を表しています。

○第1段階：生理的欲求…生きていくために必要な本能的な欲求

「食欲」「排泄欲」「睡眠欲」などでこれが満たされなければ生命の維持は不可能です

○第2段階：安全欲求…心身の安全の確保、安定した生活を送りたい欲求

「安全に生きたい」「安心したい」という欲求で満たされないと3段階目以降の欲求は生まれません

○第3段階：社会的欲求…家族や組織など何らかの社会集団に所属して安心感を得たいという欲求

自分がその集団で役に立っていると実感することで満たされる欲求で、満たされない状態が続くと孤独感や社会的不安を感じやすくなり、うつ状態に陥る場合もあります

○第4段階：尊厳欲求(承認欲求)…所属する集団の中で「高く評価されたい」「自分の能力を認められたい」という欲求で、これが満たされないと劣等感とか無力感を持ちやすくなります

○第5段階：自己実現欲求…「他者から評価されたい」という尊厳欲求を超えて、他人どうこうよりも自分の人生観・世界観に基づいて「あるべき自分」になりたいと願う欲求です

子どもさんの行動を、この「マズローの欲求5段階説」に当てはめて理解しようとする際、第1～4段階の欲求は、一度満たされたからといって、その後もずっと満たされ続けているわけではないということに注意します。子どもの状況は日々変化します。その変化する子どもの欲求を見逃さないためにも、今の子ども自身をしっかり見てあげることが大切です。子どもの態度にイライラして、「何を考えているのかわからない！」そう感じたら、「今この子は何をしたいのかな？」「今この子は何の欲求が満たされていないのかな？」と試してみると、「もしかしらたらこうかな…」と考えるきっかけになるかもしれません。

